

高原育ち朝取り

～「などわのコーン」販売開始～

あっぷるはうすでは、8月下旬から黒石市沖揚平地区のとうもろこし「などわのコーン」の販売が始まりました。「などわ」は、津軽弁で「あなたと私」という意味。早朝に収穫したその日に直売所へ出荷されるので、新鮮で柔らかく甘みが強いのが特徴です。

価格は1本120円、1袋5本入り600円から。お問い合わせ先は、JA直売所あっぷるはうす(☎0172-53-1650)。



早朝に収穫されたとうもろこし

他JAの取り組みを学ぶ

～家の光・女性部大会～

女性部(工藤美津江部長)は8月21日、平川市文化センターで「家の光・女性部大会」を開き、女性部員約120人が出席しました。

体験発表では、JAおいらせ女性部佐々木和枝さんが第62回全国JA女性部大会で発表した『小さなてのひらに一冊の「光」』を聞き、他JA女性部の活動や家の光を活用した取り組みについて学びました。また記念講演では、RA Bラジオの「朝からおとらじ」を担当している大友寿郎氏を講師に迎え、誤嚥防止するための滑舌練習などを学びました。



佐々木さんの発表を聞く女性部員

『青天ナビ』の活用を

～「青天の霹靂」刈り取り講習会～

当JAと中南地域「青天の霹靂」生産プロジェクトチームとJA津軽みらいは9月7日、平賀地区と田舎館地区で県のブランド米「青天の霹靂」の刈り取り講習会を開きました。刈り取りの遅れは品質低下を招き、被害粒や胴割粒が発生することから刈り取りの適期を確認しました。

中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の八島敏行主幹は「刈り取り適期は、出穂後の積算気温が900～1100度に達する9月9日から20日頃となる見込み。田んぼ1枚ごとの収穫適期が分かるブランド米生産支援システム『青天ナビ』(リモートセンシング)を活用して、刈り作業を行ってほしい」と呼び掛けました。

令和2年産は、287経営体が809畝作付けし、約6万8000俵の出荷を予定します。



平賀地区



田舎館地区